

小規模企業の景況

(令和3年1～3月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和3年1～3月期の結果概要は以下の通り。今期(令和3年1～3月期、調査基準日:3月1日)の業況DI値は、▲48.3(前回調査から1.0ポイント悪化)となり3期ぶりに低下、業種別では製造業、卸売業が改善し、小売業、サービス業が悪化した。中小企業の業況は、足踏みのなかにも一部に持ち直しの動きがみられる。売上額DI値は▲52.4(前回調査から1.4ポイント改善)、従業員過不足DI値は▲5.5となり、中小企業の人手不足感が弱まった。

「経営上の問題点」では製造業、卸売業、小売業、サービス業の全業種で「需要の停滞」が第1位となったほか、「その他」が卸売業、小売業で第2位、サービス業で第3位となり、「その他」の自由回答欄に記載があった全業種42件のうち31件が、緊急事態宣言下での来客減や消費の停滞など、新型コロナウイルス感染症を原因としたマイナスの影響を指摘した。

1. 今期(令和3年1～3月期)の状況

【売上額】今期(令和3年1～3月期)の売上額DI値(全産業)は、前回調査(令和2年10～12月期)の(▲53.8)から1.4ポイント改善し、▲52.4となった。業種別では前回調査から、製造業が6.5ポイント、卸売業が11.9ポイントそれぞれ改善し、小売業が8.5ポイント、サービス業が4.4ポイントそれぞれ悪化した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI値(全産業)は、前回調査(▲23.3)から2.7ポイント悪化し、▲26.0となった。業種別では前回調査から、製造業が1.3ポイント改善し、卸売業が横ばい、小売業が6.5ポイント、サービス業が5.8ポイントそれぞれ悪化した。

【業況】今期の業況DI値(全産業)は、前回調査(▲47.3)から1.0ポイント悪化し、▲48.3となった。業種別では前回調査から、製造業が4.0ポイント、卸売業が5.9ポイントそれぞれ改善し、小売業が11.4ポイント、サービス業が3.2ポイントそれぞれ悪化した。

【従業員】今期の従業員DI値(全産業)は、▲5.5(前回調査▲7.2、前期差1.7ポイント増)となった。前回調査との業種別の推移は、製造業が▲3.9ポイント、卸売業が9.0ポイント、小売業が6.0ポイント、サービス業が▲2.3ポイントとなった。

2. 来期(令和3年4～6月期)の予想

来期(令和3年4～6月期)の全産業の予想DI値は、売上額▲15.8、資金繰り▲21.6、業況▲17.1となった。

3. 経営上の問題点

製造業、卸売業、小売業、サービス業の全業種で「需要の停滞」が第1位となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(令和2年1月～3月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第163回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
 - ・調査時期：令和3年2月19日～3月1日（前回：令和2年11月2日～11月15日）
 - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
 - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,918件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）293件について取りまとめた。
- 〔製造業76件、卸売業67件、小売業67件、サービス業83件〕

■DI値推移（全産業）

	160回調査	161回調査	162回調査 (前回)		163回調査 (今回)	
	R2(2020年) 4～6月期	R2(2020年) 7～9月期	R2(2020年) 10～12月期	R3(2021年) 1～3月期	R3(2021年) 1～3月期	R3(2021年) 4～6月期
売上額（増-減）	-76.9	-65.5	-53.8	-38.4	-52.4	-15.8
資金繰り（好-悪）	-49.3	-29.3	-23.3	-23.3	-26.0	-21.6
業況（好-悪）	-75.5	-62.4	-47.3	-33.6	-48.3	-17.1
従業員（過-不）	-1.4	-3.4	-7.2		-5.5	

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 →	35 (36)	需要の停滞 →	32 (29)	需要の停滞 →	12 (12)	需要の停滞 ↑	21 (16)
2位	原材料価格の上昇 ↑	6 (3)	仕入単価の上昇 ↑	5 (3)	消費者ニーズの変化への対応 →	10 (10)	利用者ニーズの変化への対応 ↓	15 (17)
			その他（輸出の減少、コロナ感染拡大による消費の停滞） ↑	5 (3)				
3位	製品ニーズの変化への対応 ↓ 生産設備の不足・老朽化 ↓	5 (7) 5 (7)	/		/		その他（コロナウイルスの影響による不要不急の外出自粛のため利用客の減少、コロナ感染拡大防止のため得意先へ訪問できない） →	14 (13)

[注]（ ）内は前回（令和2年10～12月期）調査結果

↑ = 前回より高順位

→ = 前回と同順位

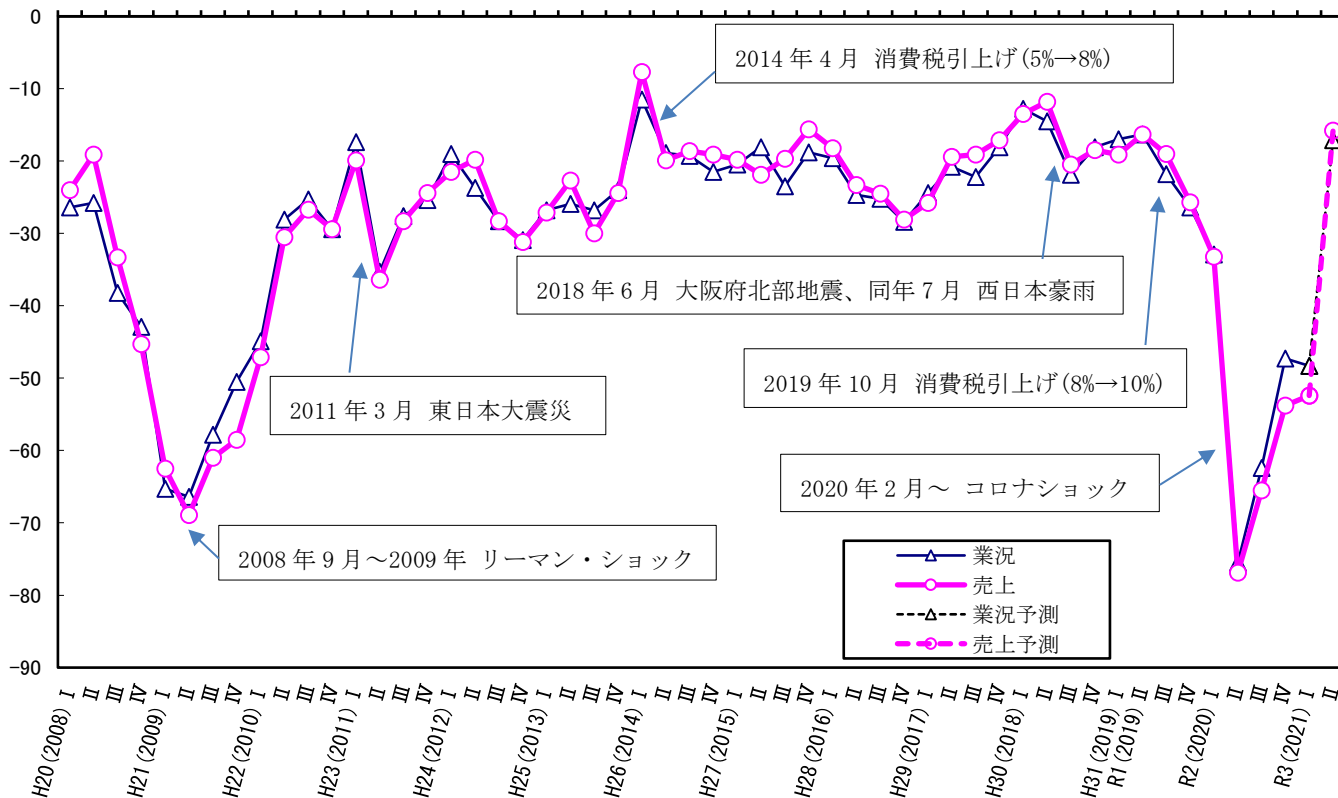
↓ = 前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(1~3月期)				前回(10~12月期)からの推移	来期の予想(4~6月期)			
		増加	不変	減少	増-減		増加	不変	減少	増-減
売上額										
	製造業	11.8	21.1	67.1	▲ 55.3	6.5	17.1	35.5	47.4	▲ 30.3
	卸売業	14.9	20.9	64.2	▲ 49.3	11.9	26.9	35.8	37.3	▲ 10.4
	小売業	10.6	12.1	77.3	▲ 66.7	▲ 8.5	27.3	27.3	43.9	▲ 16.7
	サービス業	15.7	27.7	56.6	▲ 41.0	▲ 4.4	27.7	38.6	33.7	▲ 6.0
	合計	13.4	20.9	65.8	▲ 52.4	1.4	24.7	34.6	40.4	▲ 15.8
前回		11.0	24.3	64.7	▲ 53.8		14.0	33.6	52.4	▲ 38.4
資金繰り		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	7.9	60.5	31.6	▲ 23.7	1.3	6.6	59.2	34.2	▲ 27.6
	卸売業	10.4	58.2	31.3	▲ 20.9	▲ 0.0	9.0	59.7	31.3	▲ 22.4
	小売業	7.6	48.5	43.9	▲ 36.4	▲ 6.5	12.1	51.5	34.8	▲ 22.7
	サービス業	7.2	57.8	31.3	▲ 24.1	▲ 5.8	9.6	62.7	24.1	▲ 14.5
	合計	8.2	56.5	34.2	▲ 26.0	▲ 2.7	9.2	58.6	30.8	▲ 21.6
前回		7.5	60.3	30.8	▲ 23.3		6.8	61.6	30.1	▲ 23.3
業況		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	11.8	25.0	63.2	▲ 51.3	4.0	18.4	32.9	46.1	▲ 27.6
	卸売業	9.0	35.8	55.2	▲ 46.3	5.9	19.4	40.3	32.8	▲ 13.4
	小売業	9.1	18.2	72.7	▲ 63.6	▲ 11.4	21.2	30.3	48.5	▲ 27.3
	サービス業	13.3	38.6	48.2	▲ 34.9	▲ 3.2	24.1	49.4	26.5	▲ 2.4
	合計	11.0	29.8	59.2	▲ 48.3	▲ 1.0	20.9	38.7	38.0	▲ 17.1
前回		8.6	35.6	55.8	▲ 47.3		11.3	40.8	44.9	▲ 33.6
従業員		過剰	適正	不足	過-不					
	製造業	11.8	73.7	13.2	▲ 1.3	▲ 3.9				
	卸売業	9.0	79.1	9.0	0.0	9.0				
	小売業	4.5	71.2	7.6	▲ 3.0	6.0				
	サービス業	4.8	68.7	20.5	▲ 15.7	▲ 2.3				
	合計	7.5	72.9	13.0	▲ 5.5	1.7				
前回		6.5	73.3	13.7	▲ 7.2					

「今期の状況（除従業員）」は令和3年1~3月期状況であり、前年同期の令和2年1~3月期との比較。来期の予想は令和3年4~6月期予想であり、令和2年4~6月期との比較である。「前回」欄は令和2年10~12月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和3年 II 予想値